

文化財センター通信

【かざぐるま】

風車

8

平成15年11月1日発行

紀州の歴史と文化の風

〒640-8404 和歌山県和歌山市湊571-1

Tel : 073 (433) 3843 Fax : 073 (425) 4595

発行：財団法人 和歌山県文化財センター



大日山 35 号墳現地説明会風景

主な内容

■発掘調査最前線

大日山 35 号墳の発掘調査

■紀南の社寺建築

その 2 (神社建築)

■コラム・考古学の散歩道

神話と考古学

■和歌山文化財クロスワード

■現場速報

【発掘現場最前線—大日山 35 号墳の発掘調査—】

藤井 幸司

和歌山県が今年度から進めている「緑の歴史回廊」事業の一環として大日山 35 号墳の保存整備事業を行うこととなり、文化財センターではその保存整備事業の支援業務を実施することになりました。保存整備の基礎資料を得るための測量調査や発掘調査を実施していますので、その成果の一部をここで紹介します。

岩橋千塚古墳群は、700 基あまりの古墳が確認されており、国の特別史跡に指定され、貴重な歴史遺産として保存が図られています。大日山 35 号墳は、その岩橋千塚古墳群の中に位置しています。従来から墳長 73m を測る岩橋千塚古墳群の中でも大規模な前方後円墳の 1 つと考えられていましたが、今回の調査により 6 世紀初頭に築造され、墳丘が 3 段築成で全長 96m を測る県内で最大規模の前方後円墳であることが判明しました。さらに、東西くびれ部の 2 段目には造り出しが設けられ、東西の造り出し上では形象埴輪群とそれを囲繞する円筒埴輪列の一部が発見されました。東側造り出しでは、円筒埴輪のほか、人物埴輪、水鳥形埴輪、家形埴輪、須恵器大甕などが古墳築造時に据えられた場所のままの位置で発見されました。人物埴輪には、マワシを着けた力士や上半身に入れ墨の表現が認め

られる女性などが認められましたが、これらは類例が非常に少ないとみられます。また家形埴輪は複数個体発見されていますが、そのうちの1つは屋根が入母屋造というもので、大棟を支えるための棟持柱という柱が表現されています。これは、当該期の大王陵とみられている大阪府の今城塚古墳で出土した家形埴輪と類似しており、近畿地方では非常に珍しい表現とみられます。このような珍しい形象埴輪のほか、蓋形埴輪、犬形埴輪、馬形埴輪なども発見されており、今後の調査や整理の進展が期待されます。



人物埴輪（力士）の出土状況

以上のような調査成果を一般のみなさんに公開するために、10月19日に現地説明会を和歌山県教育委員会と共催しました。説明会には、熱心な考古学ファンを含む300名以上の方々に参加いただき、みなさんの関心の高さが窺われました。

【紀南の社寺建築—その2（神社建築）—】

寺本 就一

和歌山県では流造、春日造、隅木入春日造（社寺建築の見方その1参照）が、ほぼまんべんなく分布しているにもかかわらず、紀南においては、春日造はほとんどなく、隅木入春日造が多くみられます。これは九十九王子社の社殿と関連があるとされています。流造は全国的にみられる社殿の型式で、紀南でも多くみられます。



熊野三山では、熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社それぞれ独自の信仰に由来する神々を祀っていましたが、各社が他の二神を祀り熊野三所権現として一本化され、さらに神仏習合が進み独自の信仰形態を造り出しました。三山ではそれぞれ独自の配置で多くの本殿を並列させています。これらの社殿はいわゆる熊野造と呼ばれる独特の型式で、間取りは正面一間、背面二間、側面三間、向背一間で本宮と那智は同じですが、屋根型式は異なります。また、美山村の下阿田木神社本殿や田辺市の關鷄神社本殿などのように側面が二間のものも熊野造と言われており、熊野造とは実にファジーな型式の社殿であるといえます。下阿田木神社本殿は明応3年(1434)に建てられた県内最古の熊野造本殿です。また、和歌山県の神社建築の特徴として、複数棟の本殿を並立させる点があげられます(本

須賀神社本殿（南部川村西本庄）

殿と摂社・末社の構成や、明治以降一カ所に集められたものは除きます。) 。紀北では丹生都比売神社など丹生神社系の、紀南では熊野本宮大社や熊野那智大社などの熊野系の並立社殿がみられます。これ以外にも南部川村の須賀神社本殿のような並立社殿もあります。複数の祭神を同格に扱おうとする意志の表れともみられます。また、熊野三山は、複数の大型社殿が建ち並ぶ独特の景観を誇っています。



関鷄神社 (田辺市)

【コラム・考古学の散歩道：神話と考古学】

丹野 拓

『日本書紀』の一書である紀伊系の伝承では、素戔鳴命すさのおのみことは日本に船がないのはよくないことだとして、御子神である五十猛命等いたけのみことを紀伊国に遣わし船の材料となる樹種をもたらし、自らは熊成峯から根の国(=あの世)へ入ってしまったといひます。あくまでも伝承ですが、紀伊の人々は熊野のあたりに漠然と根の国を想定していたとも想像されます。

和歌山市にある伊太祈曾神社いだしんそうでは、樹木の神様である五十猛命をお祀りしています。神社境内には伊太祈曾神社1号墳があり、石室内には柵や梁状の石材を渡した在地色の強い岩橋型の横穴式石室が開口しています。このような古墳の横穴式石室にみる世界を反映した神話には、伊弉諾命いざなぎのみことの黄泉国訪問譚があります。

伊弉諾命が、黄泉の国へ亡くなった伊弉冉命いざなみのみことを迎えに行くのですが、変わり果てた伊弉冉命の姿をみて逃げ帰ります。このとき伊弉冉命のいた場所が横穴式石室の玄室、逃げ帰る途中の黄泉つ平坂が羨道、逃げ切った時に入口を閉じた岩戸が閉塞石にあたります。羨道が坂道になっていることや、入口の閉塞を板状の石を用いて行うことから、この話は九州系の横穴式石室との関連が考えられています。伊弉諾命の黄泉国訪問譚は、5～6世紀頃の横穴式石室の追葬の体験が背景にあるものと考えられます。

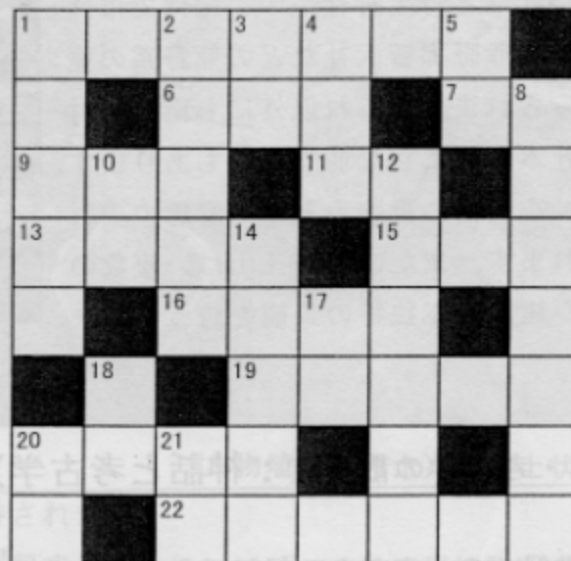
7世紀になると、『日本書紀』や『続日本紀』に天神地祇てんじんぢぎを祀る記事が多数あり、8世紀に成立した万葉集では亡くなった子供の魂をもどすために、天神に祈願し、地神に伏して頼むという所作が確認できます(巻5-904)。この歌の反歌では天と地への道案内を願っており、この頃には人間の魂が天へ上昇するという新しい思想と、従来の古墳埋葬にみられる地下の国への下降という2つの他界観が並存しているものとも考えられます。7世紀は考古学では古墳から寺院への変革期にあたりますが、同時に日本人の死生観の一大変革期であったものとも考えられるのではないのでしょうか。

天と地に対する意識は平安時代の浄土思想、末法思想や六道の観念などを経て、天国と地獄という新たな図式が定着してゆきます。摂取・衰退・変容を繰返しながら、1500年の時を越えて、文字の無い時代の文化も我々の中に息づいているといえるでしょう。

和歌山文化財クロスワード

縦のカギ

- 1 万葉集に歌われる和歌山市沿岸部の景勝地
- 2 縄紋土器に続いて作られた素焼きの土器
- 3 江戸時代の代表的な髪かみの結い方
- 4 熊野を通り大和盆地で即位。初代 天皇
- 5 持統天皇の即位前の名。 ___ 讀良皇女
- 8 鑑真和上が開基した寺。奈良の ___ 寺
- 10 説明するより速い。 ___ より証拠
- 12 シルクロードのロブ湖畔にあった砂漠の国
- 14 第一次世界大戦開戦時のアメリカ大統領
- 17 租税。また、租税を納めること
- 18 国宝の鏡を所蔵。橋本市 ___ 八幡神社
- 20 かつらぎ町、高野町は ___ 郡にある
- 21 古事記と日本書紀。二文字で呼ぶと ___



横のカギ

- 1 紀州徳川家五十五万石の城
- 6 モーセやノストラダムスは ___ 者
- 7 石川県北部の旧国名。 ___ 半島
- 9 丑三ツ時、わら人形を打ち付ける行為
- 11 紀伊半島南半の地名。東西南北の郡に分裂
- 13 体育の日に学校で開催される ___ 会
- 15 根来塗はこの植物の樹液を利用している
- 16 JR 広川ビーチと紀伊内原の間の駅
- 19 フィリピンフィリピンの首都マニラがある島
- 20 樹木の神を祀る和歌山市内の神社
- 22 秋になると香りの良い橙色の花が咲く

(解答は次号発表)

現場速報

当センターの発掘調査・建造物保存修理の各現場について、近況をお知らせします。

埋蔵文化財課

●橋本市 柏原遺跡 (調査中)

紀ノ川北岸の段丘上に位置する弥生時代中期の墓域を調査。方形周溝墓を5基検出しており、今後も調査区を拡張します。墳丘北辺の周溝上で、供献された壺が並んだまま出土しています。

●和歌山市 大日山35号墳 (11月初旬調査終了予定)

古代豪族紀氏の首長墓とみられる大型前方後円墳を調査中です。(詳細は1・2頁目で紹介)

●御坊市 蛭田坪遺跡 (10月中旬調査終了)

御坊駅前御坊駅前で県道の拡幅に伴う発掘調査を実施しました。弥生時代前期の溝・土坑などとともに、当時の壺や甕などが見つかりました。

●海南市 野上中南遺跡 (11月上旬調査開始予定) 弥生時代の集落の調査を実施します。

●貴志川町 平池古墳群 (11月中旬調査開始予定) 古墳の墳丘を確認します。

文化財建造物課

●旧中筋家住宅 (保存修理中)

主屋・表門は解体がほぼ終了し、竈や流しなどを復原するための調査を行い、文化庁と復原案の協議を行っている。長屋蔵・北蔵は今年度末の竣工を目指して工事を進めています。

《 編集後記：風車の内容に関するご意見・ご要望等ございましたら、是非ともお聞かせ下さい。(丹野) 》